

三代目 (1984年～)

三代目は、「タクト」「タクト・フルマーク」の2タイプ設定とし、1985年騒音規制(72dB)に適合させ、より静粛性が高く力強いエンジン(5馬力)を搭載しました。それまでの直線基調のデザインからより親しみやすいよう曲線、曲面を基調としたデザインに一新。

装備面ではフロントパネルの内側に施錠できるインナーボックスを採用するなど、幅広い用途で扱いやすく高級感あるスクーターとしました。



■1984年 タクト

四代目 (1987年～)

四代目は、「タクト・フルマーク」として1986年の原動機付き自転車のヘルメット規制に伴い、フルフェイスヘルメットを収納できる大容量スペースを確保した『メットイン機構』をシート下のボディに内蔵しながらも流麗なデザインを両立させました。さらにエンジンは燃焼効率と掃気効率に優れた新設計の6ポートシリンダーの採用で5.8馬力を達成。ヘッドライトには加圧クリプトンガス封入バルブのツインフォーカスヘッドライトを採用し照射範囲を一段と広げるなど細部の使い勝手や乗り心地も向上させました。



■1987年 タクト・フルマーク

五代目 (1989年～)

五代目は、ネーミングを「タクト」とし、駐車時のメインスタンド操作をキーを回すだけで簡単に行える画期的な機構として、量産車として世界初の「電動式オートスタンド」(スタンドアップ機構)を搭載。この機構は、軽量・コンパクト性を求められるスクーターの特性に合わせた構造にするとともに、少ない消費電力で作動するよう開発したものです。この『スタンドアップ機構』は、毎回の駐車のおぼろげさを大幅に軽減する、使う人の立場に立った機能です。

この利便性の高い『スタンドアップ機構』に加え、メットインスペースの容量アップ(22L)や大型燃料タンク(4.8L)、新型の高性能6馬力2ストロークエンジン、より快適な走りや乗り心地を生む足廻りなど、スクーターの利便性をさらに広げる数々の機能を充実させながら、洗練された調和のとれた個性的なデザインを実現させました。



■1989年 タクト